

岡山市長 様

提案者(団体名) 平和推進岡山市民協議会
 所在地 岡山市北区春日町5-6
 代表者役職 理事長
 氏名 大石 和昭

協働課 岡山市保健福祉局保健福祉部福祉援護課
 所在地 岡山市北区鹿田町一丁目1-1
 代表役職 課長
 氏名 松本 豊

令和7年度 市民協働推進事業提案書

岡山市との協働により課題解決を図るため、令和7年度岡山市市民協働推進事業を提案します。

提案事業の名称	岡山空襲を知らう伝えようプロジェクト
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> NPO提案型
①社会課題の概要	<p>岡山市平和の日である6月29日に毎年開催している岡山市戦没者追悼式の参列者や、同時期に岡山シティミュージアムで開催している「岡山戦災の記録と写真展」の来場者は、減少傾向にある。平和な時代が続き、次世代を担う若者の身近に戦争体験者がいなくなっているなか、若い世代へ戦争の惨禍を伝え、平和を大切にする意識をどのように育んでいくのかがより重要な課題になっている。</p> <p>市では、岡山空襲を中心とした資料を展示し、歴史の事実を認識しながら、先人の労苦を偲び、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいくため、平成24年10月に岡山空襲展示室を開設している。</p> <p>これまで家庭や学校が担ってきた戦争体験の継承の場を引き継ぎ、戦争体験者の役割を補完する施設として、岡山空襲展示室が市民に活用され、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいけるよう、岡山空襲を語り伝える活動をしている平和推進岡山市民協議会と事業を実施する。</p>
②定性的効果 定量的効果	<p>定性的効果 見学者やガイドへの聞き取りやアンケートにより、理解度等を把握する。 参加者(ガイド)・空襲について知り、平和の大切さを考える機会になる。 市民・歴史や戦争についての理解を深め、平和を大切にする意識を醸成する。 岡山市・岡山空襲展示室の質の向上・充実(見学者の理解度・満足度)につながる。</p> <p>定量的効果 岡山空襲展示室の見学者の増加、活用の拡大を目指す。</p>
③提案事業の内容	岡山空襲展示室の「ボランティアガイド」を募集・養成・設置する。
事業の実施予定期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
事業予算総額及び 補助金申請額	事業予算総額 1,829,904円
	補助金申請額 1,829,904円

市民協働推進事業計画書

(1) 実施体制

提案者	代表提案団体	平和推進岡山市民協議会			(担当者名 内田 順子)	
	合同提案団体 (協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)				(担当者名)	
	岡山市の担当者	課名	福祉援護課		電話	086-803-1218 内線 5453
		担当	氏名	岩本 由美	職名	係長

(2) 事業の目標・内容 ※以下、数値や指標など用いながら具体的に記載してください。

①社会課題の概要	<p>【提案団体の視点】</p> <p>戦後78年を経過した今、戦争を直接体験した世代の人たちが少なくなり、戦争を知らない世代がほとんどとなっている。</p> <p>戦争のない社会は恒久の願いであるが、世界では争いが絶えないのが実情である。歴史は形を変えて繰り返すとよく言われるが、二度と戦争という過ちを繰り返さないために過去の史実を知り、目をそらさず歴史の教訓から学ぶことが大切だと考える。</p> <p>岡山空襲は人々の関心事になりにくい。公民館などで岡山空襲をテーマに講座を企画しても、参加者が少ない。大切なことなのに人が集まらないので実施に踏み切れない、という声を何度か耳にした。推進協が行う平和をテーマにした行事でも、参加者の年齢は高く、若い人たちの参加がない状況である。</p> <p>岡山空襲展示室の利用・活用状況については、訪れたり、立ち寄ったりする人は決して多いとはいえず、平和学習のため見学に来る小学校や中学校の数も多くないと聞いている。</p> <p>「平和推進岡山市民協議会（推進協）」は、岡山空襲を語り伝え、市民と共に平和について考えていきたいと願い活動をしている。「岡山市」と「平和を願う市民の人たち」と「推進協」が協働してできる活動を探り実現していきたい。</p> <p>【協働課の視点】</p> <p>岡山空襲展示室は、岡山空襲を中心とした資料を展示し、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいくための施設である。岡山シティミュージアムの一部に展示室があり、3名の会計年度任用職員で運営している。このため、岡山シティミュージアム開館時には展示室も開館しているが、説明付きの見学予約以外は、展示室内は無人である。場所としても多くの見学は受け入れが難しい状況である。</p> <p>また、開設から10年経ちコロナ禍の影響もあるが、入場者数は増えてはならず、学校の活用もごく一部にとどまっている。</p> <p>戦後、時が経過し、日常で戦争の記憶に触れる機会はほとんどなくなり、身近な家族や地域や学校に、戦災を語れる人がいなくなってきている。このような時代を迎え、岡山空襲展示室の役割はますます重要になると考えている。</p> <p>岡山空襲展示室の活用が進み、岡山空襲を知り、戦争・平和について考える人が増え、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に継承する人、それに携わる人の裾野を広げていきたい。</p> <p>そのために、まずは岡山空襲展示室にガイドを設置する事業を実施する。</p>
----------	---

<p>②定性効果と定量的効果</p>	<p>定性的効果 見学者やガイドへの聞き取りやアンケートにより、理解度等を把握する。 参加者（ガイド）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空襲について知り、平和の大切さを考える機会になる。 ・活動により岡山空襲展示室を支える。 ・戦争体験の継承や平和活動の担い手の育成につながる。 <p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や戦争についての理解を深め、平和を大切にする意識を醸成する。 ・岡山空襲や戦争・平和に関する行事への参加のきっかけになる。 ・戦争体験の継承や平和活動の担い手を増やすことにつながる。 <p>岡山市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山空襲展示室の質の向上・充実（見学者の理解度・満足度）につながる。 ・平和行政、平和教育の推進につながる。 <p>定量的効果 【実績 R6 年 11 月現在】 岡山空襲展示室の見学者の増加、活用の拡大を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示のガイド実施 0 回→ <u>0 回</u>（研修中） ・市内学校見学数 13 校→ <u>17 校</u> ・「岡山戦災の記録と写真展」の 1 日平均来場者数コロナ禍前 156 人→<u>197 人</u>
<p>③提案事業の内容</p>	<p>1 年目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山空襲展示室の「ボランティアガイド」を養成し設置する。1 期生は推進協のメンバーを中心に実施する。 ・ガイドの内容・範囲、募集対象者・広報、運営を 1 年かけて固める。 <p>(NPO)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の事務を担当する。 ・ガイドの活動内容の検討のため、見学者等の状況・ニーズ調査を実施する。 ・ガイドの活動内容、マニュアルと運営の仕方を検討し作成する。 ・養成講座カリキュラムの原案を作成し協議する。 ・養成講座を受講する。 ・他都市の施設を視察する。 ・展示室でガイドを行う。展示室の運営補助を行う。 ・ガイド公募に向けて「募集要項・チラシ」を検討し作成する。 ・各団体、地域、学校へのアプローチの仕方を検討し、広報、募集を行う。 ・ガイドの登録、スケジュール調整、出勤管理を行う。 <p>(岡山市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド養成のため、展示室や戦災展の見学を受け入れ説明等を行う。 ・ガイドの活動内容、マニュアルと運営の仕方を検討し作成する。 ・団体から提出された案を基に、養成講座カリキュラム作成する。 ・養成講座の講師の選定・依頼、会場等の確保・準備を行う。 ・学芸員を講師として養成講座に派遣する。 学芸員はガイド開始可否判定、指導を行う。 ・ガイド公募に向けて「募集要項・チラシ」を検討し作成する。 ・各団体、地域、学校へのアプローチの仕方を検討する。 ・広報活動を展開する。マスコミ（新聞社、テレビ局）に取材要請等。 ・各方面への募集アプローチの仕方を検討する。 ・2 年目に向けて、活動内容・運営、カリキュラム、募集対象者・手法の総括と見直しを行う。
<p>③提案事業の内容</p>	<p>【1 年目の活動状況】 推進協報告 岡山空襲展示室が広く市民や教育現場に知られ、もっと利活用される施設になるような方策に取り組むことが求められている。 本プロジェクトは、その一助になるためにボランティアガイドの養成・設置をめざし、1 年目の事業を進めている。 <事業実施の中で見えてきた、具体的課題> 1 岡山空襲展示室の実情に合ったガイドの姿、在り方</p>

- 2 適切な配置の時期・日数・時間など。ガイド活動の運営の仕方
- 3 来年度の養成講座カリキュラムとガイドデビューまでの流れ。
- 4 一般公募に向け、応募要項の決定と広報・各方面へのアプローチの仕方

(実施状況)

○状況調査・アンケート

計4回 調査延べ22名 回答者数344名

調査場所 岡山空襲展示室前、戦災展会場前(6月実施分)

5月の連休・6月の戦災展・夏休み期間中と計3回アンケート調査を行った。

主な調査結果は、

- ・空襲展示室の知名度の低さは予想を超えるものであった。約8割が常設展示室があることを知らない状況であった。
- ・ガイドを希望しない人の割合は6割～7割。予想より多かった。理由は、自分で自由に見学したい、自分のペースで回りたい、説明を読めば分かるからなど。ガイドを希望した人は3～4割で、理由は、より詳しく知りたい、いろいろ話を聞いた方がよく分かるから、勉強になるからなど。
- ・空襲展示室を目的に訪れた人はごく少なく、ほとんどがシティミュージアム企画展に来た人達だったが、声をかけると約7割の人達が空襲展示室に入室し、アンケートに応えた人の9割が展示内容が良かったと評価は高かった。

これらの結果から、ガイド配置の時期・時間帯、ガイドの説明の仕方などが見えてきた。

○視察

計4か所、視察施設 立命館平和ミュージアム、岡山県立美術館、
高松市平和記念館、福山市人権平和資料館

ガイド設置、市立の施設を視察。規模や設立の経緯などそれぞれ異なり、そのまま同様に実施とはいかないが、ガイドの在り方、説明の仕方、運営方法など参考になることが多くあった。

○養成講座 推進協会員対象

計6回 申込21名 会場 岡山市勤労者福祉センター会議室、
岡山空襲展示室

戦争の歴史、岡山空襲、岡山空襲展示室、展示品解説、ガイド心得・見学マナーなどについて、外部講師、岡山空襲展示室学芸員を講師として開催。12月には岡山空襲展示室の展示解説を見学する講座を実施する。

視察と実態調査を踏まえ、岡山空襲展示室ガイドの望ましい姿について話し合いを続けている。また、1期生の養成講座も実施し、6回のうちすでに5回を終え、来年3月デビューを目指し、学習に励んでいる。

来年度一般公募でボランティアガイドを募る。

ガイド活動の内容・募集対象・養成講座の内容・申込方法などを明確に示すことと、広報活動の在り方、各方面へのアプローチの仕方が重要な課題となってくる。特に若い世代へのアプローチをどう行うかの検討が必須である。

2年目の目標

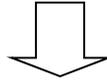
- ・1期生ガイドによる展示室ガイドを行う。
- ・公募のガイド2期生の募集と養成を行う。
(展示室ガイドだけでなく、個人ガイドも範囲とする。)
- ・若い世代も取り込み継続的な事業になるよう、実施状況、応募状況等を踏まえ、活動内容、募集の手法等を見直し、検討する。

(NPO) <1年目と同じ項目は省略>

- ・岡山シティミュージアムの特別展に合わせ、展示室ガイドとして活動する。
- ・養成講座を実施する。
- ・一般募集に向けて、幅広い年代に対し周知し取り込めるよう、各団体、地域、

③提案事業の内容

	<p>学校等へアプローチする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容・運営、カリキュラム、募集対象者・手法の見直しを行い、次年度以降の取り組みを検討する。
	<p>(岡山市) <1年目と同じ項目は省略></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知、募集の広報は、広報紙、市ホームページ、「戦災の記録と写真展」、教育委員会との連携など、市の立場を最大限に活用する。また、マスコミ活用など、多方面に多種の手段で行う。 ・市の戦後80年事業の関連事業として周知広報を行う。 ・活動内容・運営、カリキュラム、募集対象者・手法の見直しを行い、市の事業との位置づけの調整等、次年度以降の取り組みを検討する。



(3) 事業終了後の事業

事業終了後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次年度に一般施策 □ 市民協働推進事業として事業を継続し、次々年度に一般施策 □ 次年度に提案団体の自主事業 □ 市民協働推進事業として事業を継続し、次々年度の自主事業 ■ その他（「次年度に一般施策」を方針とするが、2年間の事業結果を踏まえ、協議及び調整後、最終的に方針決定する。）
事業の内容	<p>○岡山空襲展示室「ボランティアガイド」募集・養成・設置・運営</p> <p>対象：学生を含めた幅広い世代のガイド養成を目指し、ガイドの場を展示室ガイドに限定せず、学校や団体、地域、家庭などでの個人ガイドや岡山空襲の学習・研究を目的とする人も対象にし、募集・養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山空襲展示室でガイド ・岡山空襲の理解、知識を習得し、自己・プライベートを対象にガイド <p style="text-align: center;">↓</p> <p>目的：岡山空襲を知り、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に継承する機会・人を増やす。</p> <p>事業継続：</p> <p>ガイド設置には、募集・養成・運営のための費用、事務の負担が発生する。一般施策化には、市（岡山空襲展示室）の事業としてどのように組み込むか、ガイドを有する提案団体との役割分担など、整理・解決すべき課題は多い。</p> <p>また、ガイドを確保するためには、本ガイド事業の魅力の付加・発信及び周知が必要である。</p> <p>2年目の事業を実施しながら、事業継続に向けた検討・見直し等に取り組む。</p>

(4) 事業スケジュール ※■月1回程度、打合せ（検討、進捗管理等）を行う

時期	一年目【実績・予定1月～】	二年目【計画】
4月	上旬 ■4/8 第1回	周知広報・応募受付 2期生募集開始（～5月）
	中旬	■体制計画確認、ガイド内容・マニュアル等検討
	下旬 4/23 他施設視察 ■4/25 第2回	
5月	上旬 5/2, 3 状況調査・アンケート ■5/8 第3回	周知広報・応募受付 （1期生ガイド特別展-5/11）
	中旬	■マニュアル・講座カリキュラム作成・準備
	下旬	応募者取りまとめ、連絡調整
6月	上旬 ■6/10 第4回 戦災展解説見学 6/7-6/30	応募者連絡調整
	中旬 6/11 他施設視察 6/16 状況調査・アンケート	■養成講座準備
	下旬	2期生戦災展見学対応 2期生ガイド養成講座（6月～11月全6回）
7月	上旬	
	中旬 ■7/16 第5回	■講座準備、ガイド調整準備
	下旬	1期生ガイド 1期企画展夏休期間
8月	上旬 8/4 状況調査・アンケート 8/7 他都市視察	
	中旬 ■8/20 第6回	■講座準備、事業課題検討
	下旬	
9月	上旬	
	中旬 ■9/17 第7回 1期生ガイド養成講座（9月～12月全6回）	■講座準備、事業課題検討
	下旬 9/15, 23, 10/12, 11/9, 16, 12/22	
10月	上旬	
	中旬 ■10/11 第8回	■事業課題検討・見直、募集広報検討
	下旬	
11月	上旬	■事業課題検討・見直、募集広報検討
	中旬 ■11/11 第9回	
	下旬	
12月	上旬	ガイド登録・運営事務 2期生研修期間
	中旬 ■12/18 第10回	■次年度事業計画
	下旬	1期生ガイド 1期企画展冬休期間 2期生レビュートーク期間
1月	上旬	1期生研修期間 周知・広報
	中旬 ■第11回 周知広報検討	次年度募集広報開始（～5月）
	下旬 レビュートーク期間	■事業運営整理・整備
2月	上旬	
	中旬 ■第12回 運営・マニュアル等見直整備	■事業運営整理・整備
	下旬 2期生募集開始（～5月）	
3月	上旬	1期生ガイド開始特別展 2/28- ■実績報告作成、次年度準備
	中旬 ■第13回 実績報告作成・2年目準備	2期生ガイド開始
	下旬	

(様式第3号)

市民協働推進事業収支予算書

提案事業名	岡山空襲を知らう伝えようプロジェクト
-------	--------------------

<収入>

費目		金額 (円)	内訳
自己資金等	申請団体 自己資金	0	
	合同提案 団体負担金等	0	
自己資金合計 (a)		0	
その他収入		0	
その他収入合計 (b)		0	
岡山市補助金申請額 (c)		1,829,904	
収入合計 (d) = (a) + (b) + (c)		1,829,904	

<支出>

費目		金額 (円)	内訳
事業実施経費	報償費：講師謝礼	110,000	研修講師 15,000 円×1 回, 10,000 円×1, 5,000 円×5 指導等謝礼 30,000 円×2=60,000
	旅費：他都市視察・その他旅費 費用弁償	236,600	東京 33,800 円×5 人 講師旅費 67,600 円
		250,000	交通費 打合・従事 50,000 円, ガイド 100,000 円 募集・広報 1,000 円×100 回
	消耗品	200,000	文房具、用紙、講座用・ガイド用物品、書籍、視察先謝礼、案内表示板等
	食糧費	10,000	講師飲料等
	印刷製本費	200,000	研修資料、チラシ等
	通信運搬費	150,000	事務局電話 (7,000 円×12 月)、 郵送 (チラシ送付, 応募書類送付等)
	使用料・賃借料	280,000	研修・打合会場 50,000 円、コピー30,000 円、 機材レンタル 200,000 円
保険料	7,000	ボランティア保険 350 円×20 人	
事業実施経費合計 (e)		1,443,600	
管理運営経費	人件費 (事務局)	386,304	1,006 円※×4 時間×8 回×12 月×1 人 ※会計年度任用職員時給単価
管理運営経費合計 (f)		386,304	
総事業費 (g) = (e) + (f)		1,829,904	

(添付書類等)

- ・ 人件費等については、積算の根拠（これまでの実績や独自の単価表）を添付すること
- ・ 参加料などの事業収入を見込む場合は「その他収入見込」欄に計上すること
- ・ 委託費は補助金交付申請額の3分の1以内に限りま